

長泉町・さわやかハイキング報告書

通算山行 NO	NO・74	報告者	井上 弘二郎
年 月 日	2009年12月6日(日・晴れ)	2万5千	韭山
山 名	三津・発端丈山(410m)～葛城山～大仁・城山(342m)		
体力度=3・普通	技術度=3・普通	藪漕=無し	道標=ある
トイレ=	長岡温泉足湯	展望度=◎	三角点=小坂村(葛城山)
等級=二等			
晩秋の伊豆、胸のすく眺望と3つの山頂			
コース とタイム	裾野市役所 6:00—なめり駅 6:10—農協 6:20—沼津高専 6:25—下土狩駅 6:30— 三津港 8:03—発端丈山登山口 8:12—発端丈山頂上 9:34—葛城山分岐 10:25—葛 城山頂上 10:55—下り 11:13~11:28—城山分岐 12:10—城山頂上 12:26—城山下 山(分岐まで) 12:35~12:46—城山登山口 13:18—大仁「一二三荘」(忘年会) 13:30~16:30—下土狩 17:30		
標 高 差	上り 三津約0m～発端丈山410m=約410m(累計はもっとあり) 下り 発端丈山410m～狩野川約10m=約400m(")		
参 加 者	CL 後藤隆徳、SL 井上弘二郎、勝田勝子、杉山友紀江、信田知恵子、堀江義昭、 河合純子、天野和子、広瀬久美子、土屋ひとみ、増田真理子、小松真明、峰 田光江、大庭雅子、野村京子、野村和徳、木野わか代=17名		

下土狩駅前通りを通過すると、バスは深い霧の中に入っていった。長岡から三津港に出るトンネルを抜けるまでずっと濃霧が続き、山での展望を心配した。後藤リーダーが、朝霧は天気がよくなる印というので、きっと富士山と駿河湾のセットを眺めることができるのだろう。

今回はさわやかハイクA隊の忘年山行で、午前が山で、午後は忘年会となっている。個人的には、2年前さわやかハイクで登って以来の発端丈山であった。

三津港では日曜市が開いていて、みかんやはんぺんなど買い物を楽しんだ。計画より30分遅れ出発した。参加者17人中男性は5人。聞こえる声はほとんど女性でとてもにぎやかだ。



三津漁港



発端丈山頂上

発端丈山ハイキングコースに入るとあちこちに木イチゴの実が生り、口に入れると甘酸っぱく、自然の味を楽しんだ。稜線に出るまで登りは急である。

私は5週間ぶりの山で、体が喜んでるのが分かる。人工物に囲まれた下界を離れ、自然の中に身を置き、汚れの無い空気で呼吸を繰り返すと体内が少しずつ浄化されていくようだ。一步一步、足の筋肉に負荷を感じる。昨夜の雨で道は濡れて滑りやすい。滑って転ばないように集中し足を置く。雑に歩くと滑るし、ひざも痛めるので、猫のように運足するよう意識した。富士山は時折、雲間から頂上だけ現わす。稜線に出てからはなだらかなアップダウンを繰り返し、少しずつ高さを上げて、本日第1の頂である発端丈山頂上に到着。下りの途中には三角点があり、益山寺への分岐に至る。その後、縦走路を離れ、葛城山ピストンのため、登り口へつながる林道を歩く。葛城山登り口からの登りも急であった。後藤さんは、歩荷訓練で約20kgを背負っているのも全体もゆっくり進む。

2つ目の頂上である葛城山では、ロープウエーで上がってきた観光客が大勢いた。ここで、富士山が全体を見せた。眼下に沼津アルプスと駿河湾が広がり、胸のすく光景だ。少休憩の後、30分かけて登った道を15分で下った。再び縦走路に戻り、次は3つ目の頂である城山をめざす。城山の分岐で何人かは荷物をデポし空身で登る。道には岩が多く、足の置場に頭を使う。本日3つ目の頂、城山頂上に到着。富士山は全身を現し、伊豆天城の山々、大仁、長岡の町とぐるりと景色が広がり、飽きることなく楽しむことができた。



発端丈山頂上



葛城山を下る

城山分岐からの下りは、日陰が多くぬめって歩きにくい。お昼をとうに過ぎており、空腹を我慢して歩いた。すでに5時間以上歩いており、膝が笑っている。ようやく狩野川まで下り、待っていたバスに乗った。

大仁の「一二三荘」で風呂に入り、持ち寄り料理で忘年会をした（1人800円で温泉+3時間休憩）。巨大黒糖蒸しパン、梅酒梅のてんぷら、京都みやげのおたべ、柿、三津港で買ったシラスに桜海老、うまいものあり、めずらしいものありと、食べきれないご馳走がならび、楽しい時間が過ぎた。

今年の皆勤賞は天野さんで、後藤さんより、（山で焼酎のお湯割を飲むのに最高と思われる）山用高級保温マグカップが贈呈された。各自今年の反省と来年の抱負を語り、充実した楽しい忘年会だった。皆さん、ありがとうございました。よいお年を。

そして、来年からまた頑張りましょう。



城山頂上



超豪華な御馳走



青春の思い出
城山は岩山



一年、ご苦労様でした

